

はぐち  
羽口

羽口とは、炉に空気を送るための送風管の先につくものです。出土した羽口は、凸面がガラス化しているため、炉の内部で使用されたものであることが分かります。

直径が約18cmあり、大型の炉に用いられたと考えることができます。



いがた  
鑄型

鉄などの金属製品を作るための型のことです。型は粘土で作られており、外型と内型（中子）の2種類があります。

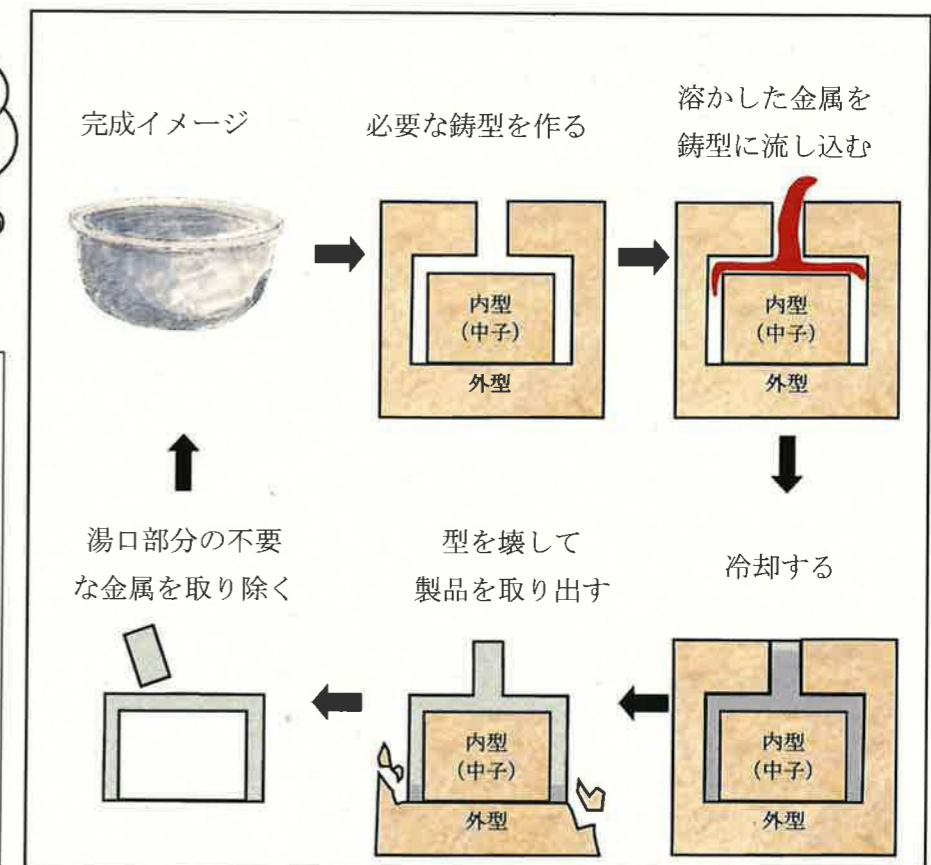
完成品を取り出すときに壊すためそのままの状態で出土することはほとんどありません。

写真中央の円形の部分が内型です。黒い部分は、土が熱により変質したものか、製品をはがれやすくするための加工の可能性が考えられます。

外型部分は確認できませんでした。



鑄造作業  
工程イメージ



ろへき  
炉壁

鑄造を行う時に、鉄などの金属を溶かすための炉を作ります。炉は粘土などで作りますが、金属を溶かす時に熱を受け、土の中のケイ素との反応などにより、内面がガラス化します。

炉は、使用後取り壊されるため、壁が破片として出土することがほとんどです。



じゅうきやく いがた  
獣脚の鑄型

獣脚は、羽釜や鍋につく脚で、本体と接合される部分に獣の顔が、先端部に獣の爪先が表現されるものが多く認められます。

出土した鑄型は、獣の爪先が2段に表現されていましたが、獣の顔の部分は確認できませんでした。



完成品イメージ図



出土した獣脚鑄型